

2022年度 物流システム機器生産出荷統計

2023年8月

 公益社団法人
日本ロジスティクス システム協会
JAPAN INSTITUTE OF LOGISTICS SYSTEMS

 一般社団法人
日本物流システム機器協会
The Japan Institute of Material Handling

物流システム機器生産出荷統計調査委員会・委員名簿

	所 属	役 職	氏 名
委 員 長	早稲田大学	名誉教授	吉本 一穂
副委員長	村田機械(株)	専務取締役 営業推進担当	石山 敏彦
委 員	(株)IHI物流産業システム	営業本部 営業企画部 主査	今村 壮壺
委 員	オークラ輸送機(株)	営業本部 営業企画室 営業管理グループ 係長	石原 智裕
委 員	(株)オカムラ	上席執行役員 物流システム事業本部長	田尻 誠
委 員	三機工業(株)	プラント設備事業本部 企画開発部 専門部長	大城 文彦
委 員	住友重機械搬送システム(株)	マーケティング部 部長	山下 孝司
委 員	西部電機(株)	マテハン事業部 営業部 部長	白竹 健一
委 員	第一工業(株)	搬送システム本店 営業部 営業G 主任	三浦 洋
委 員	(株)ダイフク	コーポレートコミュニケーション本部 広報部 参与	高光 巧一
委 員	(株)タクテック	営業本部 営業部 部長	川本 文一
委 員	トーヨーカネツ(株)	執行役員 ソリューション事業本部	國友 宏俊
委 員	(株)豊田自動織機	トヨタL&Fカンパニー 物流ソリューション事業室 企画管理室 室長	長谷川 昌平

(2023年8月現在、敬称略、社名五十音順)

事務局：公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 JILS総合研究所

I. 統計の目的

物流システム機器は生産や流通の効率化、高付加価値化に重要な役割を果たしており、我が国経済の発展のためにもその発展と成長が期待されている。そのためには、関係する企業が適切な経営判断を行えるよう、物流システム機器についての定量的で継続性のあるデータが不可欠である。

このようなことから、物流システム機器の生産出荷状況を定量的かつ継続的に把握することを目的として、標記の調査を実施するものである。なお、本調査は「物流システム機器推進部会」（旧：物流システム機器懇談会）が1985年度から実施している統計を実質的に継承しているが、2007年度調査より新たに調査委員会を設置し、一般社団法人日本物流システム機器協会・統計部会の協力を得て、調査内容の検討・分析を行っている。

II. 調査対象と期間

国内主要物流システム機器メーカーを対象とし、2022年4月から2023年3月までの実績を調査集計したものである。

業種別調査は、調査対象25機種について、機種別に売上件数ベースで主要出荷先上位10業種を選択し、金額構成比を記入する方式としている。各社の各機種の売上金額に金額構成比を乗じて、各機種および小計別に、売上金額の上位10業種および金額のトータルを、グラフにまとめている。

97年度よりフォークリフト等、産業車両分野は一般社団法人日本産業車両協会の調査による統計を別枠で発表している。また、2006年度より、一般社団法人日本パレット協会が調査を実施しているパレット（木製パレット・金属製パレット・プラスチック製パレット・シートパレット・紙製パレットの合計）の生産数量および出荷額をあわせて別枠で掲載している。

2022年度フォークリフトは国内販売実績83,308台で、国内販売向け金額は2,436億7,100万円である。輸出版売実績は40,826台である（一般社団法人日本産業車両協会において、輸出向け販売金額は現在調査していない）。

2022年度パレットは、生産数量が前年比1.9%増加の6,068万枚で、出荷額は1,875億円となっている。

1. アンケート実施状況

- ・実施日程：2023年5月12日発送～6月16日〆切

2. 調査範囲

- ・製造業における組立ライン、ホテル、病院、図書館、オフィス等通常の物流領域以外への出荷を含める（自動車の製造ラインも含む）。
- ・増設・改造等(工事を伴うサービス業務)についても、出荷データに含める。
- ・クリーンルーム向けを含む（クリーンルームの定義は次項参照）。

※増設は、基数、件数、売上金額を含む。

※改造は、売上金額のみ計上し基数、件数は含まない。

3. クリーンルームの定義

- 1) クラス10,000以下
- 2) 該当業種：半導体、FPD関係、太陽電池、HDD、メディアなど
- 3) 医療・食品業界向けは、クリーンルーム向け販売には含めず、エンドユーザーと売買したものに含める(一般物流とする)

4. 調査範囲について

2003年度(調査対象年)より、機器メーカー各社で取扱高が増えたクリーンルーム向けの調査を開始しているが、2004年度までの定義は「クラス10,000以下で半導体を除く」としていた。また、調査範囲を2005年度(調査対象年)より変更しており、2004年度までは「製造業における組み立てライン、ホテル、病院、図書館、オフィス等、通常の物流領域以外への出荷は含まない」としていた。また、2007年度まではパレットおよびロールボックスパレットを調査対象に含めていた。

Ⅲ. 調査対象機種

2020年度調査より、6「無軌道台車システム」の仕様によって項目を細分化し、6-1 無軌道台車システム(パレット)、および6-2 無軌道台車システム(パレット以外)とした。

図表1 調査対象機種

1-2	パレット用自動倉庫 (ビル式・ユニット式)	<ul style="list-style-type: none">・一般的にパレット積みされユニット化された荷を、多段高層の棚及びスタックークレーン等を使用して自動的に搬入・搬送・搬出できる保管庫をいう。・また、荷を直接ハンドリングするパレットレスのものも含む(ビール樽、新聞用紙など)。
3	バケット用自動倉庫 (ユニット式)	<ul style="list-style-type: none">・通箱、バケット、カートンを単位としたもの。
4	天井走行台車	<ul style="list-style-type: none">・天井空間に設置し、軌道ないし台車に駆動力を持つもの。・基数は台車の数量とする。金額には軌道・制御装置を含む。
5	有軌道台車システム	<ul style="list-style-type: none">・軌道ないし台車に駆動力を持つもの。・基数は台車の数量とする。金額には軌道・制御装置を含む。
6-1	無軌道台車システム (パレット)	<ul style="list-style-type: none">・各種センサーにより誘導される無人搬送台車のうち、パレットの積載が可能なもの。・基数は台車の数量とする。金額には制御装置を含む。
6-2	無軌道台車システム (パレット以外)	<ul style="list-style-type: none">・各種センサーにより誘導される無人搬送台車のうち、パレット以外の積載が可能なもの。・基数は台車の数量とする。金額には制御装置を含む。
7	仕分機	<ul style="list-style-type: none">・自動にて荷の仕分けを行うもの。・構成範囲はインダクション部(誘導部、商品投入部)からソータ本体、仕分けシュートまで(リサークルラインはケース搬送用コンベヤとする)。・基数は、台数とする。

図表1 調査対象機種（つづき）

8	パレット搬送用コンベヤ	<ul style="list-style-type: none"> ・パレットを被搬送物とするコンベヤ。 ・対象範囲：パレットを搬送するコンベヤすべてを含む、及びコンベヤ本体を制御する本体制御を含む。
9	ケース搬送用コンベヤ	<ul style="list-style-type: none"> ・バケット及びカートンケースを対象としたコンベヤ。 ただし、石炭、鉱石、泥等のバルクを搬送するものは除く。 ・対象範囲：ケースを搬送するコンベヤすべてを含む、及びコンベヤ本体を制御する本体制御を含む。
10	ハンガー式コンベヤ	<ul style="list-style-type: none"> ・天井空間に設置し、ハンガー商品を吊下げて搬送するコンベヤ。 ・対象範囲：物品を吊り下げて搬送するコンベヤで、本体・装置・制御全体を含む。
11	デジタルピッキング表示器	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの指示によりピッキングする品物の位置と数量を表示する装置。 ・対象範囲：表示器を取り付けている流動棚、中軽量棚、コンベヤは含まない。ただし、回転棚に取り付けているピッキング表示器は回転棚に含む（パーティカル・ホリゾンタル共）。 ・制御関係は本体制御を含み、指示するコンピュータはコンピュータに集計する。
12	ピッキング台車	<ul style="list-style-type: none"> ・ピッキングする品物の位置と数量を表示する装置を取り付けているピッキング用の台車。 ・対象範囲：ピッキング台車本体及びコンソールと、付属する部品（充電器等）も含む。
13・14	回転棚(垂直式・水平式)	<ul style="list-style-type: none"> ・荷の軽重、制御レベルを問わない。垂直、水平両方式の回転する棚。 ・基数は、台数とする。
15・16	移動棚(電動式・手動式)	<ul style="list-style-type: none"> ・電動、手動にて移動する機構を備えた棚。 ・基数は、台数とする。
17	重量棚	<ul style="list-style-type: none"> ・パレット単位のユニットロードを格納する棚(ネスティングパレットを含む)。
18	中軽量棚	<ul style="list-style-type: none"> ・カートン単位、またはバケット単位などを格納する棚で、1棚当りの重量が約500kg以下のもの。
19	流動棚	<ul style="list-style-type: none"> ・カートン単位またはバケット単位のもの、傾斜の付いた棚に置き、前面での取り出しを容易にさせたもの。
20	パレタイザ/デパレタイザ	<ul style="list-style-type: none"> ・バケット、カートンケース、袋物等の物品を自動にてパレット上に整列集積（或いは分離）する装置。 ・機械式、ロボット式のいずれの方式も含む。
21	パレット搬送用垂直搬送機	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の搬入出装置を備え、連続で搬送物を垂直搬送する装置（パレットを被搬送物とする）。 ・ただし、エレベータ、小荷物専用昇降機は含まない。
22	ケース・ピース搬送用垂直搬送機	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の搬入出装置を備え、連続で搬送物を垂直搬送する装置（バケット及びカートンケースを対象とする）。 ・ただし、エレベータ、小荷物専用昇降機は含まない。

図表1 調査対象機種（つづき）

23・24	コンピュータ (ハード・ソフト)	・物流機器の情報処理と在庫監視を同期化して行うコンピュータシステムのハード・ソフト。
25	WMS	・物流センター・倉庫等で入荷から出荷までの一連の作業を支援するコンピュータシステム(ハード・ソフト)。 ・対象範囲：物流設備の有無、物流設備との接続の有無を問わない。
26	その他	・以上1～25の分類に該当しないもの。

IV. 調査事項

前項であげた各々の機種につき、A売上件数、B基数、C総売上金額、D海外向金額を調査しており、数値の重複を避けるため、以下の区分で調査を行なっている。

M：同業他社向けに売買したもの

U1：エンドユーザー、商社などと売買したもの

U2：ゼネコン・エンジニアリング・コンピュータ会社と売買したもの

C：クリーンルーム向けに売買したもの

C総売上金額、D海外向金額の数値はいずれも売上ベースであり、売上件数に対応する据付、調整工事を含む全金額とする。ビル式の場合には土木、建築工事の金額を含むものとする（建築の範囲：ラックに付属する屋根・壁）。D海外向金額はC総売上金額の内数である。なお、売上件数については、例えば同一顧客企業に2回以上納品した場合、部品だけを納品した場合等、回答企業によりカウントの方法が異なる回答が含まれている可能性があり、注意が必要である。

業種別調査は、売上金額を出荷先業種別に調査したものである。業種別調査は、下記の業種分類により調査を行っている。ただし、業種別調査は出荷先上位10業種のみでの調査であることに加え、業種別の回答が得られない企業があることから、業種別売上高の総計が総売上金額に一致しない場合がある。

図表2 業種調査の業種分類

業種分類	大分類	業種分類	大分類
1 建設	8 その他	19-1 小売業	5 卸・小売
2 食料品製造	3 食品・医薬等	19-2 通信販売	
3 繊維・衣服	4 その他製造	20 自動車販売	8 その他
4 パルプ・紙加工		21 自動車整備サービス	
5 出版・印刷		22 サービス業	
6 化学		23 倉庫業	6 倉庫・運輸
7 医薬・化粧品・塗料	3 食品・医薬等	24 陸運	
8 石油・ゴム製品	4 その他製造	25 海運	
9 ガラス・窯業・土石製品		26 空運	
10 鉄鋼		27 鉄道	
11 非鉄・金属製品		28 通信	8 その他
12 一般機械器具		29 電気・ガス・水道	
13 電気機械器具	1 電機・精密機器	30 官庁・学校	7 官庁・図書館等
14 自動車/輸送用機械器具	2 輸送機器・部品	31 団体・組合(JA等)	
15 精密機械器具	1 電機・精密機器	32 ホテル	8 その他
16 自動車部品製造	2 輸送機器・部品	33 病院	7 官庁・図書館等
17 その他製造	4 その他製造	34 図書館	
18 卸売業(商社含)	5 卸・小売	35 その他	8 その他

V. 全体の推移

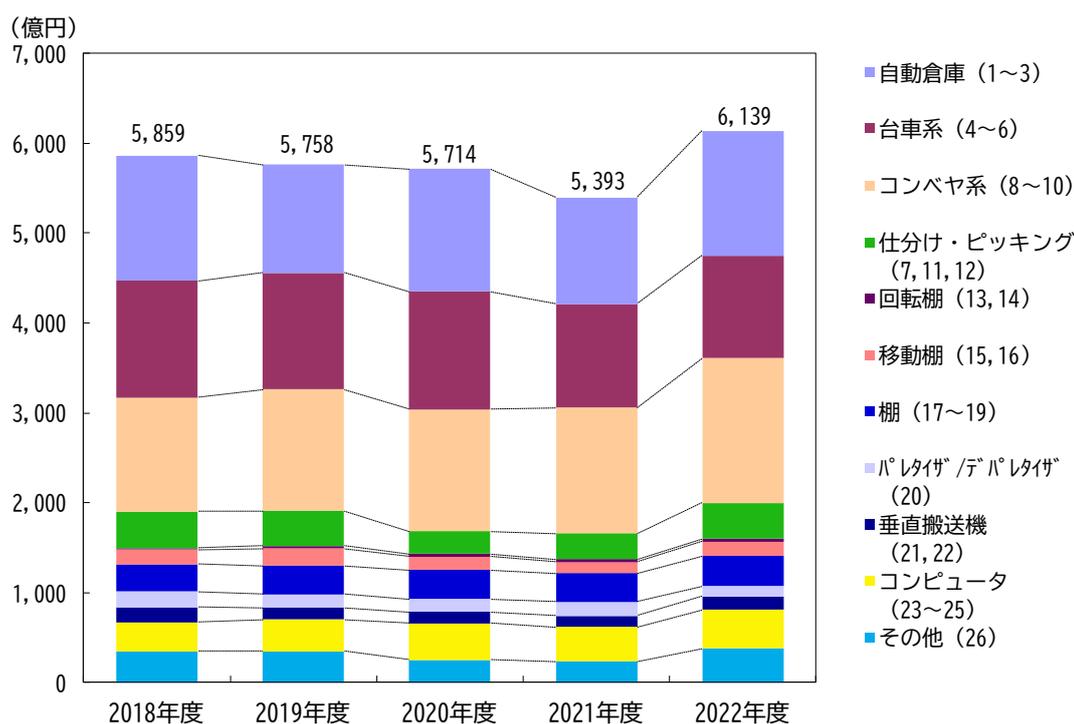
集計の結果、2022年度の物流システム機器の総売上金額は、2021年度の539,301百万円から613,916百万円へと増加（13.8%）となった（図表3）。一方で、売上件数は2021年度の129,712件から110,429件へと減少に転じた。

総売上金額は、統計調査開始以来初となる600,000百万円を超える結果となった。これは、長期的に発生していた半導体不足の影響が収束の傾向を示し、メーカー各社の生産供給が各機器の需要に追い付いてきたものと思われる。一方で、総売上金額の増加に対して売上件数が減少していることをふまえると、案件が大型化していることも推察される。

売上金額を領域別に見ると、海外向けは昨年度よりも減少した一方で、クリーンルーム向けは14.6%増加した。業種別に見ると、「電機・精密機器」に対する売上の比率が依然として高水準となっているほか、「倉庫・運輸」、「その他製造」といった業種の売上比率が昨年度より増加している（図表5）。

なお、2013年度調査から業種分類を変更しており、従来「小売業」の内数であった「通信販売」を新たに業種分類として独立させ、調査している。2022年度の「通信販売」の売上金額は27,623百万円であった。この割合は、総売上金額の約4.5%に相当する。

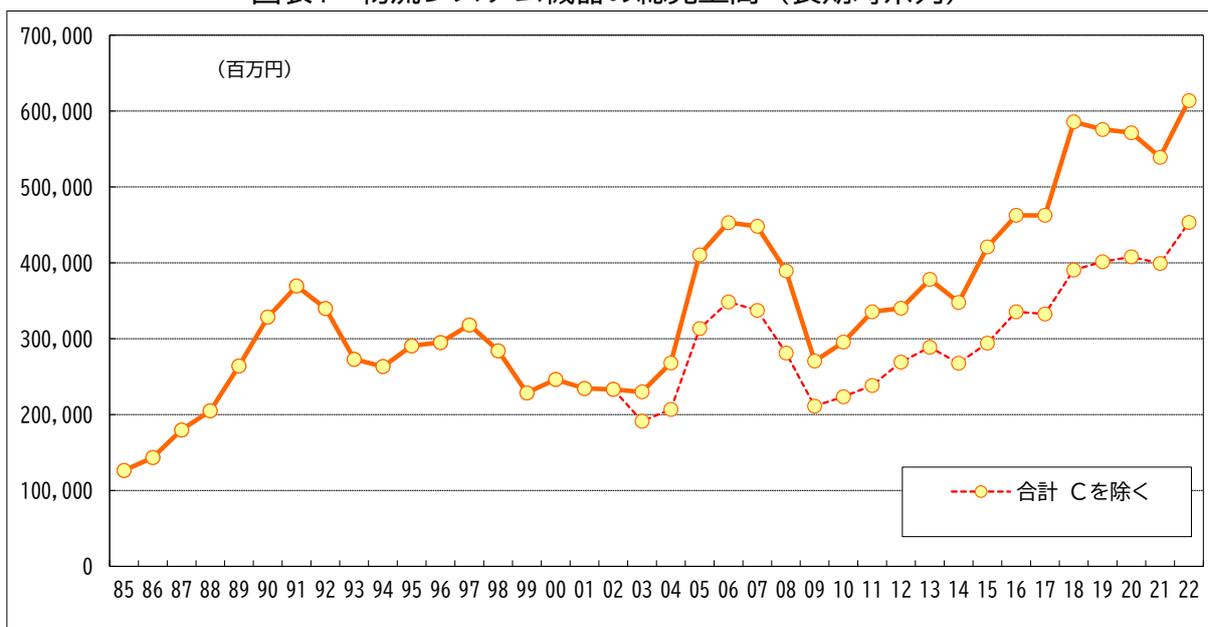
図表3 総売上金額の推移



金額	585,870	575,756	571,403	539,301	613,916	(百万円)
前年比	127	98	99	94	114	(%)

注：凡例の数字は、図表1の番号に対応

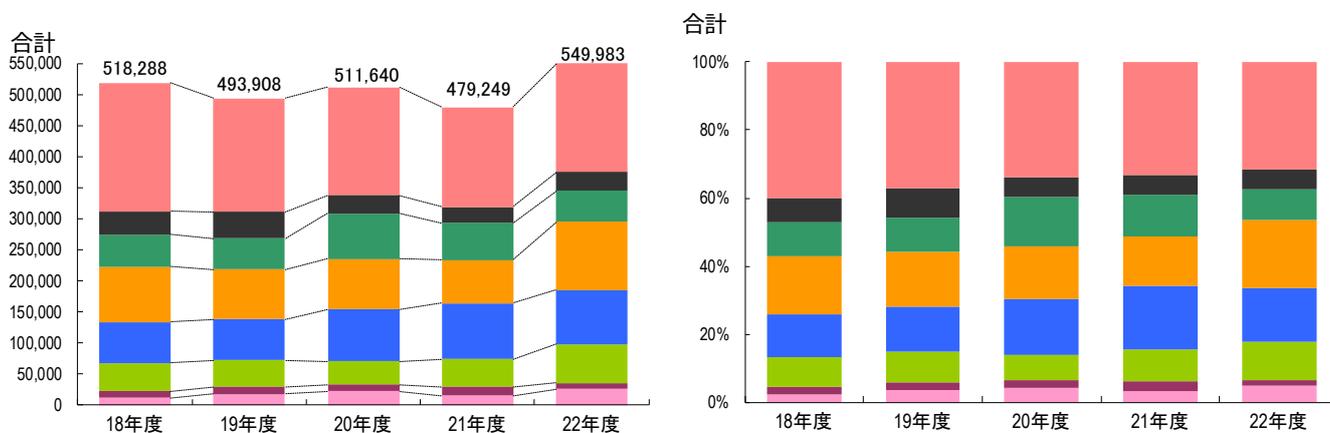
図表4 物流システム機器の総売上高（長期時系列）



注：2003年度より、クリーンルーム向け（図中のC）を調査対象に加えており、それ以前との比較のため、Cを除いたグラフも掲載した。

なお、調査範囲はそれ以外にも変更を行っており、II. 4項を参照のこと。

図表5 業種大分類別売上高の推移
（左：金額ベース／右：構成比）



業種別比率(%)	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
電機・精密機器	39.9	37.1	34.0	33.4	31.7
輸送機器・部品	7.2	8.6	5.7	5.5	5.6
食品・医薬等	9.9	10.1	14.4	12.3	9.1
その他製造	17.2	16.1	15.8	14.5	19.9
卸・小売	12.7	13.3	16.4	18.8	15.9
倉庫・運輸	8.7	8.8	7.3	9.2	11.3
官庁・図書館等	2.2	2.4	2.0	3.0	1.8
その他	2.2	3.6	4.4	3.3	4.7

注1：業種分類については図表2を参照のこと。

2：売上高の業種別構成比の記入がない回答があるため、総売上金額の合計と一致しない。

VI. 各機種別の動向

■自動倉庫（1～3）

自動倉庫全体の売上金額を見ると、前年度の118,003百万円から2022年度は139,134百万円へと増加（17.9%）した。機種別に見ると、バケット用自動倉庫（ユニット式）の売上金額が、55,940百万円から82,044百万円へ大幅に増加（46.7%）となった。クリーンルーム向けについても、前年度の27,250百万円から33,841百万円へ増加（24.2%）する結果となった。なお基数（パレット数）も2,124千パレットから2,552千パレットへ増加（20.2%）している。

■台車系（4～6）

台車系は、2022年度については、115,764百万円から113,738百万円とやや減少（△1.8%）の推移となった。基数については、11,985台から11,429台とこちらもやや減少（△4.6%）となった。機種別にみると、天井走行台車が89,818百万円から93,262百万円へと増加（3.8%）、有軌道台車システムが9,820百万円から8,284百万円へ減少（△15.6%）、無軌道台車システムは16,125百万円から12,192百万円へ減少（△24.4%）という結果となった。

■コンベヤ系（8～10）

コンベヤ系の売上高は、2017年度以降増加の傾向にあり、2022年度は139,853百万円から161,124百万円へと増加（15.2%）となった。機種別には、ケース搬送用コンベヤが94,196百万円から110,416百万円へ増加（17.2%）、ハンガー式コンベヤは8,887百万円から6,476百万円へ減少（△27.1%）し、パレット搬送用コンベヤについては、36,770百万円から44,232百万円へ増加（20.3%）した。

なおコンベヤ系は、従来よりクリーンルーム向けの売上金額の割合が小さく、大勢には影響を与えない傾向にある。

■仕分け・ピッキング系（7, 11, 12）

仕分け・ピッキング系は、これまで物流システム機器の中では好不況の影響が比較的少なく、他の機種と比べると例年売上金額の変動は小さい傾向にあったが、2020年度に前年度から大きく売上が減少した。2022年度は、前年度の28,652百万円から39,863百万円へと増加（39.1%）に転じている。

全体の過半以上は仕分機が占めているなか、仕分機の売上金額は、18,968百万円から30,290百万円へ大幅増（59.7%）、一方基数については、3,623台から3,192台へと減少（△11.9%）の傾向にある。なお、仕分機の主たるユーザは卸・小売、倉庫・運輸等の内需関連産業であり、それら業種の売上比率が、全体の半数以上を占めている。またデジタルピッキング表示器については、売上金額が8,729百万円から8,451百万円へと減少（△3.2%）している。

■回転棚・移動棚（13～16）

回転棚・移動棚の売上高は近年安定的に推移していたが、2020年度から売上が減少に転じていた。そのなかで、2022年度は前年度の15,428百万円から19,333百万円へと増加（25.3%）した。機種別にみると、売上金額の大半（83.0%）を移動棚が占めている。移動棚の売上は電動式が9,943百万円から12,422百万円へ増加（24.9%）、手動式も、2,859百万円から3,625百万円へと増加（26.8%）した。さらに、回転棚（垂直式）は774百万円から984百万円へと増加（27.1%）し、回転棚（水平式）についても、1,852百万円から2,302百万円へと増加（24.3%）した。

なお、本調査の調査対象はオフィスなど通常の物流以外の領域を含んでいる。業種別調査の結果を見ると、たとえば移動棚（手動式）では「官庁・図書館等」向けが約5割を占めている。

■棚（17～19）

棚は、重量棚、中軽量棚、流動棚の3機種からなる。売上金額は前年度の31,954百万円に対して、2022年度は33,628百万円と増加（5.2%）した。内訳として、重量棚が10,422百万円から11,289百万円に増加（8.3%）、中軽量棚も20,844百万円から21,821円に増加（4.7%）している。一方で、流動棚については689百万円から518百万円へと減少（△24.8%）した。

なお棚の出荷先は、例年、卸・小売、官庁・図書館等が多い傾向にあるが、2022年度は特に重量棚、流動棚において、卸・小売への出荷割合が増加している。

■パレタイザ/デパレタイザ（20）

パレタイザ/デパレタイザは、2009年度の一時的減少を除くと、これまで景気の影響を大きく受けず長期的に安定的な水準を維持していた。しかしながら2022年度は、前年度の売上高15,312百万円から11,471百万円へと減少（△25.1%）し、基数については1,021台から890台へと減少（△12.8%）した。

業種別調査の結果によると、出荷先業種は「食品・医薬等」と「その他製造」の2業種で大半を占める。

■垂直搬送機（21,22）

垂直搬送機は、売上金額が12,585百万円から14,410百万円と増加（14.5%）している。機種別にみると、パレット搬送用垂直搬送機は10,146百万円から12,931百万円に増加（27.5%）した一方で、ケース・ピース搬送用垂直搬送機は2,439百万円から1,479百万円へと減少（△39.4%）している。業種別に見ると、ケース・ピース搬送用垂直搬送機の出荷先は、「卸・小売」、「その他製造」向けで7割以上（72.3%）を占めている。パレット搬送用垂直搬送機は倉庫・運輸が約4割程度（43.0%）を占める。なおケース・ピース搬送用垂直搬送機については、2021年度より海外売上高が大きく減少している。

■コンピュータ（23～25）

コンピュータは、物流システム機器の情報処理や在庫管理を行う、一般的には制御系の機能を含むコンピュータソフト・ハードと、WMS（倉庫管理システム）からなる。

このうちWMSについては、本統計が主として物流システム機器のメーカー（エンジニアリング会社を含む）を調査対象としており、カバレッジが充分でない点に留意が必要である。特に、大手情報システムベンダーでは、WMSの機能を含む物流情報システムを個別に開発しているケースが多いと思われるが、上記の理由から本調査ではカバーできていない。

コンピュータ全体の売上金額をみると、2022年度は、前年度の38,417百万円から43,482百万円へと増加（13.2%）した。機種別に見ると、コンピュータ（ハード）が10,537百万円から10,799百万円と増加（2.5%）、またコンピュータ（ソフト）も24,320百万円から29,714百万円へと増加（22.2%）した。なお、コンピュータは物流システム機器の制御等に利用されるものが多く、他の機種の出荷傾向に影響を受ける。

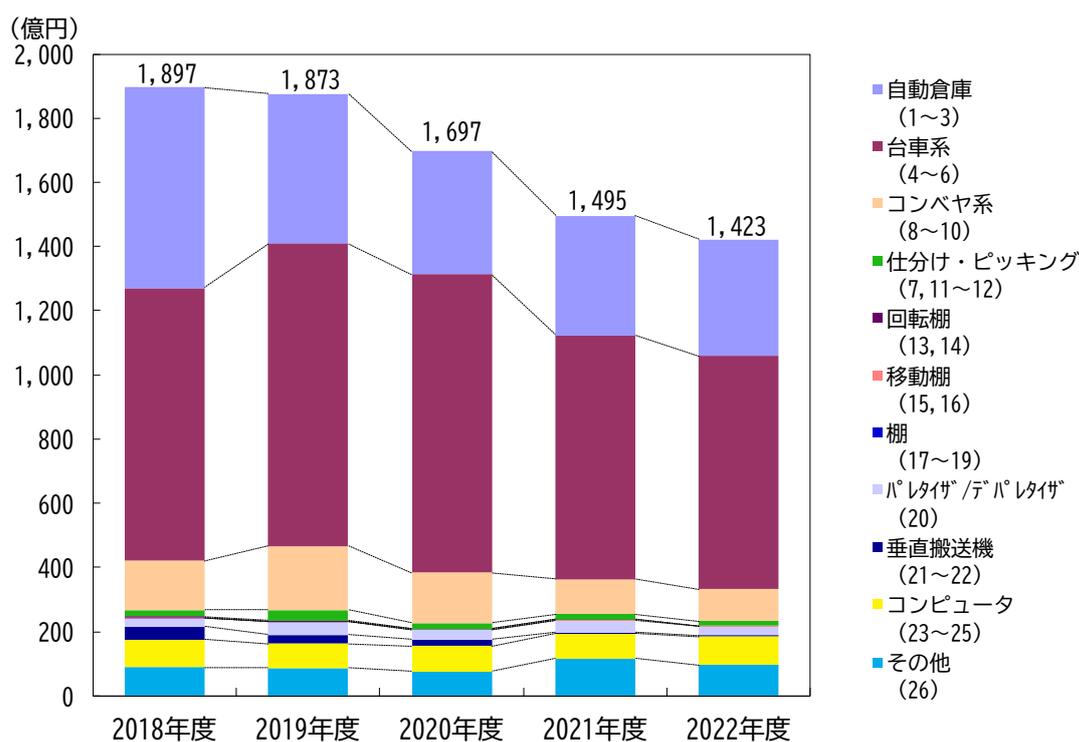
VII. 海外の市場動向

海外向け売上金額は、2021年度の149,506百万円から2022年度は142,281百万円へと減少（△4.8%）した。海外向けは従来クリーンルームの割合が高く、その影響を強く受ける傾向がある。これに関し、2022年度については、クリーンルーム向けの海外売上高は116,029百万円から117,741百万円と増加（1.5%）傾向となっている一方で、クリーンルーム以外の売上高は33,476百万円から25,033百万円へと減少（△25.2%）する結果となった。海外向け売上金額では、台車系が全体の51.0%、自動倉庫が25.6%、コンベヤ系が7.0%、を占め、この3機種で8割以上（83.6%）を占める。

この3機種のうち、台車系は75,991百万円から72,542百万円へ減少（△4.5%）、自動倉庫は37,234百万円から36,446百万円に減少（△2.1%）、コンベヤ系は10,782百万円から9,987百万円に減少（△7.4%）と、いずれも減少する結果となった。

なお、台車系の海外向け金額は、90%以上がクリーンルーム向けで占められている。また、クリーンルーム向けの売上金額は、海外向け総売上に対して82.8%を占めている。

図表6 海外向け売上金額の推移



金額	189,663	187,276	169,691	149,506	142,281	(百万円)
前年比	124	99	91	88	95	(%)

VIII. 最後に

以上で見てきたとおり、2022年度の総売上金額は統計調査開始以来初となる6,000億円を超える結果となった。

ロシア・ウクライナ情勢をはじめとした地政に起因する国際情勢の不透明や、世界的な原材料・食料の高騰など、社会環境がロジスティクス・物流におよぼす影響はますます大きくなっている。また日本国内においては、2024年問題等深刻な労働力不足への対応が喫緊の課題である。我が国の経済状況と景気の推移が本調査に与える影響については、引き続き注視する必要がある。

なお本調査では、四半期毎の受注額も調査を行っている。受注調査では、売上高ベースで出荷調査の85%程度に相当する企業の回答を得ている。受注は出荷の先行指標であるが、2022年度の出荷額は、2021年度の受注金額（846,756百万円）の約72.5%となっており、出荷金額については過去最高金額となったものの、産業界の需要に届くにはいたっていないことが想定される。

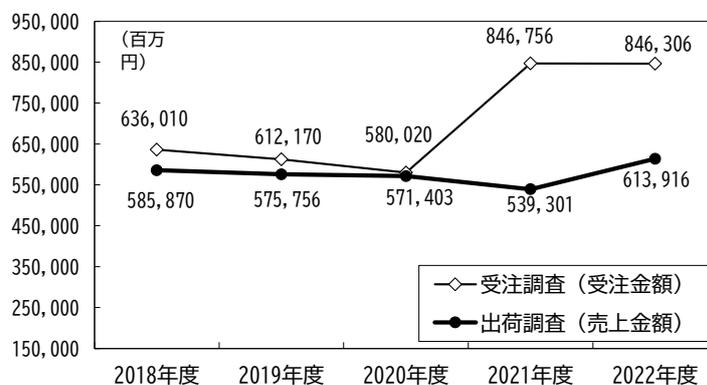
2022年度の受注金額は約8,463億円と、2021年度とほぼ同額を示している（図表7）。これは、特に庫内作業における省人化・省力化ニーズをはじめとした、昨今の労働力不足の問題への対応に向けて物流システム機器の需要が引き続き高いことを示していると想定される。上述のことから、今後受注額と出荷額の乖離、すなわち受注動向に対して出荷動向が追いついていくかどうか等を含め、これら金額の変動については動向を注視する必要がある。

以上のように、我が国の製造業は、不透明な社会情勢や諸外国の政治・経済の不安定要素、物価上昇、産業界全体における労働力不足等、深刻な課題を抱えている。国内では、特に2024年問題への対応に向けて、国や行政から持続可能な物流の構築に向けた政策発表、会合実施が積極的に行われている。このような状況において、産業界において重要な役割を担うロジスティクス・物流は、大きな転換期を迎えているといっても過言ではない。

今後、物流現場の省力化・自動化を実現する物流システム機器への重要性はさらに増していくものと考えられる。物流システム機器業界として、産業界の持続的な発展に貢献するためにも、さらなる技術革新と標準化を推進し、安全で環境負荷の少ない物流システム機器を提供することが重要である。

図表7 物流システム機器の受注額との比較（参考）

グラフは、各年度における「売上金額」と「受注金額」を表す。大型の機器等では、受注と売上（出荷）には1年ないしそれ以上のタイムラグが生じる。そのため、受注は売上（出荷）の先行指標となる。



出典：物流システム機器の受注統計整備に関する調査

注：本調査の回答企業は、売上高ベースで「出荷統計調査」の85%程度に限られる。

以上

2022年度 物流システム機器 生産出荷統計

M: 同業他社と売買したもの
 U1: エンドユーザー、商社などと売買したもの
 U2: セネコン・エンジニアリング・コンピュータ会社と売買したもの
 C: クリーンルーム向けに売買したもの
 計: U1+U2+C

設備機器名	A 売上件数	B 基数		C 売上金額 (百万円)	D 海外向金額 (百万円)	
		(台)	(パレット)			
1 自動倉庫 (1~3) 1. パレット用自動倉庫(ビル式) 2. パレット用自動倉庫(ユニット式) 3. パレット用自動倉庫(ユニット式)	M	30	86	52,881	4,314	0
	U1	1,728	3,094	2,341,255	99,892	8,467
	U2	42	88	93,405	5,401	9
	C	152	820	116,956	33,841	27,970
	計	1,922	4,002	2,551,616	139,134	36,446
2 台車系 (4~6) 4. 天井走行台車 5. 有軌道台車システム 6. 無軌道台車システム	M	81	72		380	0
	U1	2,993	2,096		22,466	3,758
	U2	11	50		414	2
	C	260	9,283		90,858	68,782
	計	3,264	11,429		113,738	72,542
3 コンベヤ系 (8~10) 8. パレット搬送用コンベヤ 9. ケース搬送用コンベヤ 10. ハンガー式コンベヤ	M	1,564			11,134	313
	U1	23,317			140,627	4,713
	U2	288			6,628	74
	C	178			13,869	5,200
	計	23,783			161,124	9,987
4 仕分機 (7) 7. 仕分機	M	217	212		4,968	11
	U1	3,959	3,090		28,972	514
	U2	112	70		565	77
	C	49	32		753	7
	計	4,120	3,192		30,290	598
5 ピッキング系 (11~12) 11. デジタルピッキング表示器 12. ピッキング台車	M	144	0		522	0
	U1	4,501	0		9,573	958
	U2	0	0		0	0
	C	0	0		0	0
	計	4,501	0		9,573	958
6 回転棚 (13~14) 13. 回転棚 (垂直式) 14. 回転棚 (水平式)	M	18	27		297	0
	U1	549	169		3,286	17
	U2	0	0		0	0
	C	0	0		0	0
	計	549	169		3,286	17
7 移動棚 (15~16) 15. 移動棚 (電動式) 16. 移動棚 (手動式)	M	804	202		3,016	0
	U1	2,180	2,126		15,652	233
	U2	36	96		395	0
	C	0	0		0	0
	計	2,216	2,222		16,047	233
8 棚 (17~19) 17. 重量棚 18. 中軽量棚 19. 流動棚	M	5,120			4,530	0
	U1	62,815			33,307	0
	U2	400			321	0
	C	0			0	0
	計	63,215			33,628	0
9 パレタイザ/デパレタイザ (20) 20. パレタイザ/デパレタイザ	M	7	30		384	0
	U1	226	856		10,912	2,555
	U2	5	13		348	0
	C	3	21		211	211
	計	234	890		11,471	2,766
10 垂直搬送機 (21~22) 21. パレット搬送用垂直搬送機 22. ケース・ピース搬送用垂直搬送機	M	83	295		2,054	151
	U1	246	450		5,550	212
	U2	181	566		7,849	0
	C	8	91		1,011	157
	計	435	1,107		14,410	369
11 コンピュータ (23~25) 23. コンピュータ (ハード) 24. コンピュータ (ソフト) 25. WMS	M	51			554	0
	U1	2,866			31,560	664
	U2	109			794	0
	C	267			11,127	8,086
	計	3,242			43,482	8,750
12 その他 (26) 26. その他	M	140			221	18
	U1	2,873			28,586	2,285
	U2	37			261	3
	C	38			8,886	7,328
	計	2,948			37,733	9,615
13 合計 (1~26)	M	8,259	924		32,374	493
	U1	108,253	11,881		430,384	24,375
	U2	1,221	883		22,976	165
	C	955	10,247		160,556	117,741
	計	110,429	23,011		613,916	142,282

物流システム機器生産出荷統計表 総売上金額の推移

設 備 機 器 名 () は集計対象機器 (小分類) の番号		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		自動倉庫 (1~3)	M	2,431	2,189	3,864
	C	58,084	37,068	33,386	27,250	33,841
	U1+U2+C	139,015	120,184	136,437	118,003	139,134
台車系 (4~6)	M	1,862	1,460	366	469	380
	C	97,961	103,394	100,006	84,328	90,858
	U1+U2+C	129,899	129,790	131,088	115,764	113,738
コンベヤ系 (8~10)	M	8,175	10,810	18,719	9,173	11,134
	C	11,497	13,302	13,405	9,424	13,869
	U1+U2+C	126,808	134,827	135,612	139,853	161,124
仕分機 (7)	M	4,436	4,140	2,031	4,044	4,968
	C	336	293	250	266	753
	U1+U2+C	33,108	31,732	18,840	18,968	30,290
ピッキング系 (11, 12)	M	553	410	624	754	522
	C	0	0	0	0	0
	U1+U2+C	7,108	6,828	6,487	9,684	9,573
回転棚 (13, 14)	M	563	331	275	91	297
	C	0	0	0	0	0
	U1+U2+C	2,190	3,279	2,572	2,626	3,286
移動棚 (15, 16)	M	2,599	476	1,582	2,526	3,016
	C	0	0	0	0	0
	U1+U2+C	15,888	18,884	15,207	12,802	16,047
棚 (17~19)	M	4,799	2,868	2,129	3,262	4,530
	C	0	0	0	0	0
	U1+U2+C	30,653	32,085	32,206	31,954	33,628
パレタイザ/デパレタイザ (20)	M	1,050	372	2,162	1,018	384
	C	3,420	965	0	965	211
	U1+U2+C	17,454	15,058	14,152	15,312	11,471
垂直搬送機 (21, 22)	M	2,102	2,003	2,203	2,193	2,054
	C	3,782	2,545	1,350	1,358	1,011
	U1+U2+C	16,471	13,106	12,945	12,585	14,410
コンピュータ (23~25)	M	2,780	2,686	323	215	554
	C	9,477	8,615	8,810	8,074	11,127
	U1+U2+C	32,276	34,856	40,744	38,417	43,482
その他 (26)	M	1,463	335	152	192	221
	C	10,893	7,948	6,354	8,451	8,886
	U1+U2+C	35,000	35,127	25,113	23,333	37,733
合計 (1~26)	M	32,813	28,080	34,430	28,132	32,374
	C	195,450	174,130	163,561	140,115	160,556
	U1+U2+C	585,870	575,756	571,403	539,301	613,916
※ フォークリフト		239,393	234,884	230,296	233,618	243,671
※ パレット		196,885	206,772	169,610	165,976	187,517

M：同業他社向けに売買したもの
 U1：エンドユーザー、商社などと売買したもの
 U2：ゼネコン・エンジニアリング・コンピュータ会社と売買したもの
 C：クリーンルーム向けに売買したもの

2022年度 物流システム機器生産出荷統計

2023年8月発行

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会

〒105-0022 東京都港区海岸1-15-1 スズエバイディウム

ホームページ <https://www1.logistics.or.jp/>

禁無断転載